

教祖百四十年祭への、第一歩

夕張大教会にて本部巡教開催



巡教員 **西浦忠一** にしうらただかず
本部員先生、ご来会

教祖百四十年祭を控え、いよいよ来年から、三年千日と呼ばれる年祭活動が始まる。その始まりにあたり、今月の26日、御本部秋季大祭において、真柱様より『諭達第四号』が発表される。諭達に込められた真柱様の想いは、私達をご存命の教祖にお喜び頂くための、最も大切な道の指針である。これから私達は、教祖が五十年間かけてお示し下された、陽気暮らしの Handbook 『ひながた』を、三年間と仕切ってたどらせて頂く、信仰の句を迎える。

御本部からは、諭達のお言葉を私達ようぼくが、心に治め実行できるようにと「本部巡教」が打ち出され、夕張大教会は早速11月19日（土）に、本部員、西浦忠一先生のお入り込みを賜り、開催させて頂く運びとなった。受講の対象となる方々には、是非とも当日大教会へお越し頂き、共におちばの声を聞かせて頂き、親神様から心の徳を頂戴したい。おさしづには、

『五十年の間の道を、まあ五十年三十年も通れと言えはばいこまい。二十年も十年も通れと言ふのやない。まあ十年の間の三つや。三日の間の道を通ればよいのや。僅か千日の道を通れと言ふのや。千日の道が難しのや。ひながたの道より道が無いで。（明治22年11月7日）』

とある。年祭活動が、三年千日と言われる所以である。教祖は私達のたった一つの心の拠り所である。教祖にお喜び頂く生き方を実行さえすれば、人は人と陽気に暮らす事が出来る。世界中の可愛い子供達をたすけ上げたい、『たすけ一条』の親心に私達も溶け込んで、この旬に、教祖のひながたをたどら

ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp

LINE 友達登録
お願いします

お知らせ

こかん様に続く会
11月次祭 11月15日（火）
第30回女子青年大会
冬のお楽しみ会
10月23日（日）
9時30分開扉献儀
11月27日（日）
12月3日（土）

せて頂きたい。

我が身、我が家の望みをお供えし、人々のたすかりを願う続ける道は、心の苦勞を伴い、決して平坦では無い。

しかし、ひながたを実行し、おたすけに足を運んでくれたようぼくが居たから今の私達があり、今も世界には、たすけの手を待つ大勢の人々がいる。

教祖一人から始まった、世界たすけの道を、夕張一同、真柱様のお言葉を胸に、励まし合って歩んで行きたい。

大教会長 藤田大和

本部巡教について

○日時 立教185年11月19日（土） 13時～15時

○場所 夕張大教会

○対象者 教会長、直属教会役員、教会長配偶者、教会長後継者、前会長、布教所長、その他ご希望の方はどなたでもご参加下さい

○次第

- 一、親神様、教祖、祖霊様礼拝
 - 一、開講挨拶
 - 一、諭達拝読
 - 一、講話
 - 一、閉講挨拶
 - 一、おつとめ
- 【拍子木】西浦先生、【数取り】大教会長

汗ばむ陽気に、勇み立つ心 先人の苦勞に想いを馳せて

九月月次祭の様様

9月15日の岩見沢は秋晴れの心地よい日となり、大教会に寄り集う参拝者も、空模様と同じような晴れやかな顔で続々と集まった。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。夏場よりは幾分か涼しくなったとはいえ、おつとめ衣を着けてのおつとめには汗ばむような陽気で、奉仕員も参拝者も汗を拭きながら、一手一つにおつとめを勤めていた。

午前1時30分になっていました。おちばから戻って数日、新たに別の病院にかかる事になりました。するとつい先日、そこのお医者さんが急逝した為、閉院するとの知らせを聞きました。まさか、立て続けに主治医が亡くなるとは思わず、開いた口が塞がりませんでした。

今月のひきよせに掲載させて頂きましたが、大教会の神殿普請より百年の年月が流れました。この神殿普請について、少し補足になるような話をさせてもらいます。

岩見沢に来る前には、北長沼の田んぼの中に夕張の教会がありました。今後の伸展も考えた時、現状より交通の便の良い所へ移りたい、と当時の好助会長は密かに考えていました。しかし役員達は猛反対。誰も賛同してくれなかつたようです。移転しようにもお金を出して

る人はおらず、やむなく父親の百治さんが所有していた土地を売るなどして、お金を工面したようです。

結果1時間程ホームで立ち、無事におちばへ帰ることが出来ました。天理駅に降りて時計を見ると、

北長沼の教会の建物を解体して、岩見沢に移築しました。そこで好助会長は立派な神殿を建てる事を計画しました。しかし手続等の書類には、大反対の役員達は判を捺してくれない。ですから、岩見沢で信仰にいた方に判を貰ったわけです。最初に名前があつたのは、高尾イセさん。この方が熱心にをいを掛けて、清水さん、阿部さん、稲垣さん、石田さん、伊藤さん、村中さんと次々に入信し、その人達が書類に判を捺したのでした。

この普請は、金銭に余裕があつたから行われたものではありませんでした。それどころか、普請の直前に北海道教務支庁の移転資金をお供えし、また客殿普請や二代真柱様一行の接遇、さらには兵神の移転普請御供などもしながらの普請でしたので、積み重なつた借金は膨大な額となりました。『何故、借金までして普請をしなければならぬのか』との声に、好助会長は『お前達は理がどういふものか分かつたらん。物というのは無形から有形へと生み出されるものだ。この道は教祖一人から始まって、幾百万の人心が救われて、このような教会に段々

なつてきたんだ。それをお前達は最初から分かつていた訳ではないだろう。今熱心にお前達はおたすけ先に運び、駆けずり回っているが、そのおたすけ先が助かるか助からないかは、分からないだろう。無形の心を相手に、丹精している

んだ。教祖のお心を心の底から確認もせず、自分の日々勤めている事を軽しく思つてはいけぬ。親神様の鮮やかなご守護を疑つて通つていようでは、お道に在るようでお道に反対して

いるようなものである。以後は理を大切に、日々を通して頂きなさい。勇んで掛ければ普請なんかたちまちに出来る』と仰られました。その中から入だすけの人材が育ち、御用に尽くす中で、少しずつ借金を返していく事が出来

ました。

父の覚書の中に、好助会長の話した講話の内容がずっと書いてありました。昭和27年3月13日、幌向の春季大祭の講話に『普請にかかれば、神様が働いて下さるんだ。だから普請にか

かつたら、神様を疑つてはならない。私も借財を重ねて、とうとう訴えられた。払う金もないのに訴えるのはどういふ事だ、と反対に訴えてやった。すると向こうは驚いて、毎月手付けでい

いから、少しずつ返してくれ、と謝つてきた』という話をされた。当時の幌向の、年月の経つた神殿を見て、お前達も頑張つて普請をなさい、という

思いで言われたんだと思います。その後7年かかつて幌向は苦勞しながら神殿普請を成し遂げるのですが、こういった普請の苦勞というものが、夕張にとつての財産だな、と思います。



藤崎実役員の話

話を戻しますと、電車でやれやれと詰所に着いた時、好道先生は『大変な思いをしたようだけど、喜んでいたのか?』と言いました。『コロナ禍で辛い思いをする中でも、喜んで通る事で、道が開けていくんだ』と。どういふ事かと思いつながら北海道に帰り、車で帰ろうとすると変な音がする。何とか騙しだまし大教会まで着いた時に、『ここだ』と思いました。ここまで走つてきた事を喜ぶ、ちよつとずつ進める事を喜ぶ。そうして走る内に何とか旭川まで帰れました。修理工場に持つていくと、よくここまで帰つてくれましたね、と驚かれました。

コロナ禍で思うようにいかない事も多いと思いますが、一つ一つを大切に通つて参りたいと思います』と語つた。大教会長は挨拶で「私の方からもご紹介させて頂きたいのが、夕張の六十年記念祭の記念誌がありまして、昭和32年に出されたものです。その巻頭に好助会長のあいさつがあるので読んで頂きます。『本日は雪を前にかくも多数お帰り下さいまして、親神様は申すに及ばず、我々も心から有難く嬉しく、御礼申し上げる次第であります。さて、私は明治39年、夕張出張所長を拜命、当時部内は幌向出張所所でありました。その頃より、私の信仰と致しまして、教祖の御苦勞の一端を何とか通らせて頂きたいと念願しておりましたので、その為には、ここに大きな土木事業でもして、にっちもさつちもいかないうな借金をし、うんと苦勞をさせて頂くと思つて、当時の勢力としてはびっくりするよう

なりました。新千歳空港に着くと、私が乗るはずの飛行機が、欠航になっていました。台風の時期でもなく、まさか、と思いました。仕方なく夜の便に振り替えてもらいましたが、関西空港に到着すると夜の9時です。大阪なんばから最終に乗り、奈良方面を目指して走っていましたが、突然電車は回送となつてしまいました。人身事故の為、奈良線は不通になつたとの事。続けての、まさか、です。

な大きな普請を計画し、それに取り掛かった訳であります。他から見れば何と無謀な、自分で苦労しているのだと笑われた日もあり、また上級からも、藤田は借金で苦しんでいるから援助してやらねば、と親心から心配して下さった日もありましたが、私は自分で買って出た仕事であり、苦労でありますから、何とも思わずに通らせて頂きました。ところが、後になって考えてみると、親神様の御守護によりまして、教会も競売にならず、たくさんの部下教会もお与え頂いて、立派にこれだけの建物が残り、苦労しようと思つてその中に飛び込ませて頂いたところ、却つて苦労出来なかつたというような事で終わりました。また、その中から信仰を掴ませて頂いたような次第で、夕張の60年の道は端的に言えば、この話で尽くされると思います。一言、これを以つてご挨拶と致します』これを読み、先人の苦労に思いを致し、神殿の築百年という節目と一緒に喜ばせて頂きたいと思ひます」と話された。その後10月に控えた、松田理治世話人先生の巡教の説明をされ、多くの人で新たな世話人先生をお迎えし、一同でお話を聞かせて頂くよう、お願いをされた。

10月15日に、^{まつだまさひろ}松田理治世話人先生のご来会を控え、夕張大教会では、教会内外の清掃ならびに整備ひのきしんを、9月23日、10月1、2日の3回にわたって行った。

9月23日は、あいにくの雨に見舞われたが、朝から大勢のみなさまにお集まりいただき、29名でひのきしんが勤められた。神殿回廊の床や窓の清掃、殿内の雑巾がけ、また客間の清掃や廊下の壁補修など、ひのきしんは多岐にわたった。

10月1、2日は、秋晴れの心地よい天候のもと、1日は41名、2日は19名の参加者が集まり、勇んでひのきしんに励んだ。境内地の除草や落ち葉拾い、剪定など屋外のひのきしんが主となり、また障子張替や客間電灯の清掃などを行った。参加者一同は、日頃ご守護いただく感謝を胸に、おぢばの声を運んで下さる世話人先生をお迎えるため、真心を込め、一手一つにひのきしんを勤めた。

また、ひのきしんの合間には、たわいもない会話に、たくさんの笑顔がこぼれていた。近年は、月次祭以外で集まれる機会がすっかり少なくなったが、久しぶりに過ごした何気ないそのひと時は、顔を合わせて触れ合うことの大切さを、改めて感じられる機会となった。

楽しい、嬉しい、ありがたい 青年会夕張分会団参

去る9月23日〜25日、青年会夕張分会のおぢば帰り団参が行われた。

コロナ禍で3年間は青年会としてのおぢば帰りは出来ず、久々の団参という事もあつて、参加者は4名と少なかつたが、皆夕張分会を代表するつもりで意気軒昂で北海道を出発。23日は台風の影響もあり、大雨が一行を待ち受けていたが、飛行機や電車、バスを乗り継いで23日夕方、詰所に到着。

24日朝には、朝つとめに参拝し、無事に到着した事を親神様・教祖に御礼申し上げた。24日昼には大阪観光へ。

普段行かないようなディープな場所へ足を延ばし、怪しげな雰囲気や路地に恐る恐る行つてみたり、きたなウマイ店で昼食を摂つてあまりの安さにびっくりしたり、足が棒になるまで歩いたが、楽しい時間を過ごした。

24日夜には参加出来なかつた会員と時間を共有すべく、オンライン交流会を実施。講師に藤原親蔵・神崎大教会長を迎え、現地・オンライン参加を含めて20名の会員が集まつた。藤原先生の講話は、自分や家族の身上からどのように悟つて通るべきか、を話して

下され、会員それぞれの心に届くものがあり、『とても良いお話だった』『分りやすくしてスツと胸に入った』との感想が続々と届いた。最後に話された『教祖のひながたは、単に苦労することと言ふよりも、どんな中でも明るい心で、神様にもたれて通る道をお残しください』という話は、一同深く感心した。その後、藤原先生を交えての第二部も大いに盛り上がり、笑い声に包まれて、詰所の夜は更けていった。

25日には改めて本部神殿にて参拝。一同揃つておつとめをし、無事に団参を終える事の出来る感謝と、いつかまた大勢の夕張の仲間で帰つてくる事をお誓ひした。その後久々の廻廊拭きをして、気持ちの良い汗を流し、思い出

の詰まつた団参は、全行程終了した。今回の団参を通して感じたのは、やはりおぢば帰りは、楽しい、嬉しい、ありがたいの詰まつた何物にも代えがたい喜びがある、という事。コロナ禍という事もあつて、二の足を踏んだ方も多かつたと思ひますが、次回は是非とも多くの会員でおぢばへ帰りたと思ひます。皆さん、一緒におぢばへ帰りましょう！(藤崎委員長)

真心が作り出す ひのきしんの輪

夕張大教会整備ひのきしん



楽しかった、大阪観光

神崎大教会長、藤原親蔵先生の講話

秋のおぢばに集える喜び——

第 30 回女子青年大会

11 月 27 日、3 年ぶりの開催となる、「第 30 回女子青年大会」。高橋都志子委員長、梶川雅代副委員長に、今の思いなどを聞いてみました。

女子青年大会ってどんな行事？

【高橋】全国の女子青年（15 歳から 25 歳を対象）が 3 年に一度おぢばに帰らせていただいて、真柱様からお言葉、婦人会長様から御挨拶を直接聞かせていただけます。



第 29 回女子青年大会の様子

団体のスケジュールは？

- 25 日 おぢばに到着
- 26 日 月次祭参拝（団体）、16 時より女子青年伏せ込みひのきしん（午後には別席も運べます）
- 27 日 女子青年大会参加、午後から詰所にて、つどい
- 28 日 北海道へ！

以前に参加した時の思い出はありますか？

【高橋】初めて参加した時に、大会の参加者全員で歌に合わせてハンドダンスを踊ったことが、とても新鮮で楽しかった記憶があります。また夜にゲームなどでみんなと盛り上がり、お風呂あがりにデザートを食べたり、詰所で過ごす時間も充実していて良い思い出です。

【梶川】3 年前に参加したのですが、普段関わったことのない同年代の子とお話しできたことが嬉しかったです。

あと大会の前夜祭で、美味しい屋台ものを食べられたことが思い出に残っています。

どんな思いで取り組んでいますか？

【梶川】今年度が副委員長の役割を終えるため、この貴重な期間で女子青年同士お道について語り合えたらな、という思いで取り組んでいます。

【高橋】まずこうしてみんなでおぢばに帰らせていただけることがとても嬉しいです。コロナで集まれなかった分、この大会をきっかけに若い世代でつながりが生まれていけば良いと思います。

抱負を一言

【高橋】しっかりお話を聞かせていただき、みんなが考えを深められる、良いきっかけになれば良いと思います。また親神様、教祖に喜んでいただけるように一生懸命つとめたいです！

【梶川】コロナ禍のため限られた中で女子青年活動をしていましたが、今回の大会で女子青年同士で、深い交流ができる機会となればと思います。



おぢばの風景

今月は、年祭活動を目前に成人の道を歩むため、修養科、教人講習、三日講習会と、たくさんの方がおぢばで過ごしております。主任先生もご満悦（教養掛・千葉）

冬のお楽しみ会の案内

少年会では、3 年ぶりに冬のお楽しみ会を、左記日程で開催予定しております。

感染症対策を施した上で、子どもたちに楽しんでもらえるよう、全力で企画を考えておりますので、ぜひともご参加下さい！

日時 12 月 3 日（土）

9 時 30 分 受付開始
10 時開始 12 時まで

参加御供 300 円

（少年会員、育成会員ともに）

内容
・ 神様のお話
・ 神殿ひのきしん
・ お楽しみ行事

お帰りの際に、お弁当とお下がりをお渡しする予定になっております。

庶務部 9 月

- ▽ 教会長夫妻特別講習会練り合い 9・15
- 富山 知一（栗山）
- 齊藤智明（南幌）
- 藤田 豊（幌都）
- 藤田真紀（幌都）
- 岩佐善昭（志加ノ谷）
- 眞鍋桂司（本三川）
- ▽ 修養科 9 月 6 期新入生 10・1
- 竹田 愛（馬追）
- ▽ おまもり 5 件
- ▽ 詰所教養掛
- 10 月 千葉祐生（大龍）
- 11 月 藤崎勇（旭都）

たすけ一条の心で 神名を声高らかに 全教一斉にいがけデー

9 月 28 ～ 30 日の 3 日間にわたって行われた、全教一斉にいがけデーでは、全国各地で、にいがけ実動がなされ、3 年ぶりに人を集めて開催する支部



↑ 千恵広支部、活動の様子



↑ 南空知支部岩見沢組、活動の様子

もあつた。駅や、目抜き通りで、路傍講演、神名流し、リーフレット配り、また戸別訪問等、それぞれの活動が展開された。

- 1 日 たすけ推進会議
- 3 日 前会長 関東方面おとめ（5 日）
- 4 日 会長、祝豊分巡教
- 10 日 会長夫妻、石田家年祭へ
- 11 日 会長、理喜道巡教
- 14 日 月次祭準備
- 15 日 月次祭
- 17 日 前会長夫妻、札美分へ（22 日）
- 19 日 会長夫妻、札美分参拝
- 22 日 会長、おぢばへ
- 23 日 大会ひのきしん
- 24 日 会長、本部神殿当番
- 26 日 前会長夫妻、おぢばへ
- 27 日 本部月次祭 遥拝式
- 27 日 本部秋季霊祭
- 28 日 会長、かなめ会
- 28 日 全教一斉にいがけデー（30 日）

大教会日誌抄 9 月